

# 令和4年度 学校推薦型選抜入学試験問題

## 基礎学力テスト

(時間 60分)

### 受験上の注意事項

- 【1】 試験開始の合図があるまで、問題冊子を開いてはいけません。
- 【2】 受験票及び机上の受験番号シールに印刷された受験番号及び氏名が間違っていれば、速やかに監督者に知らせなさい。
- 【3】 この問題冊子は、本文が32ページあります。  
問題冊子の印刷が不鮮明であったり、ページが落丁・乱丁していたり、解答用紙に汚れ等があったりする場合には、手を挙げて監督者に知らせなさい。
- 【4】 机には受験票・筆記用具及び時計等監督者から指示された物以外は置いてはいけません。
- 【5】 監督者の指示があるまで退室はできません。
- 【6】 解答用紙の解答科目欄の「基礎学力テスト」にマークしなさい。マークされていなかったり、複数の科目にマークされていたりする場合は、採点できないことがあります。
- 【7】 解答用紙については、特に次の点に留意しなさい。
- ① マークには必ず黒鉛筆（HB）を使用しなさい。
  - ② 解答は、解答用紙の解答欄にマークしなさい。例えば、



と表示のある問いに対して③と解答する場合は、次の（例）のように解答欄ウの③にマークしなさい。
- (例)
- |   | 解 答 欄 |   |   |   |   |   |   |   |   |   |
|---|-------|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ウ | ①     | ② | ③ | ④ | ⑤ | ⑥ | ⑦ | ⑧ | ⑨ | ⑩ |
- ③ 折り曲げたり、汚したりしてはいけません。
- ④ 解答用紙には、答案に関係のない語句・記号を書いたり、落書きをしたりしてはいけません。  
(問題冊子には書き込んでもよい。)
- ⑤ 誤ってマークした場合は、消しゴムできれいに消して書き直しなさい。
- 【8】 試験終了後、問題冊子は持ち帰りなさい。

# 第1問

A 次の【a】～【e】で、下線部のカタカナを漢字に改めたときに正しいものを、それぞれ①～④の中から1つずつ選べ。解答欄は、【a】は 、【b】は 、【c】は 、【d】は 、【e】は

【a】 再三の依頼にもかかわらず、彼は役職に就くのをコジした。

- ① 固持            ② 故事            ③ 誇示            ④ 固辞

【b】 徹底した管理で、品質をホシヨウする。

- ① 保証            ② 補償            ③ 保障            ④ 補詳

【c】 汚職事件の責任をツイキユウする。

- ① 追求            ② 追究            ③ 追及            ④ 追給

【d】 自分が原因の不祥事は、他人に責任テンカすべきでない。

- ① 転化            ② 添加            ③ 天下            ④ 転嫁

【e】 上司のキチに富んだ対応で、お客様に満足していただいた。

- ① 奇知            ② 既知            ③ 基知            ④ 機知

B 次の【a】・【b】に最も近い意味を持つ言葉を、それぞれ①～④の中から1つずつ選べ。解答欄は、【a】は 、【b】は

【a】 引けを取らない

- ① 無い袖は振れぬ
- ② 人の禪ふんどし すもうで角力をとる
- ③ 人後に落ちない
- ④ あと足で砂をかける

【b】 ねじを巻く

- ① 発破を掛ける
- ② 腹をくくる
- ③ 寝た子をおこす
- ④ 馬脚をあらわす

C 次の【a】～【c】の□に正しい漢字を1つずつ入れて、それぞれの四字熟語を完成させよ。漢字はそれぞれ①～④の中から選べ。

解答欄は、【a】は 、【b】は 、【c】は

【a】 巧言□色

- ① 礼
- ② 齡
- ③ 励
- ④ 令

【b】 前人未□

- ① 等
- ② 到
- ③ 統
- ④ 当

【c】 変□自在

- ① 現
- ② 幻
- ③ 玄
- ④ 元

D 次の【a】～【d】の文には誤りがある。その誤りと訂正方法の説明として最も適切なものを、それぞれ①～④の中から1つずつ選べ。

解答欄は、【a】は 、【b】は 、【c】は 、【d】は

【a】 もし十分な準備時間を確保できるので、このイベントが成功する可能性は飛躍的に高くなる。

- ① 助詞「が」と「は」の2つが同時に1つの文に存在しないように、「は」を別の格助詞に置き換えるとよい。
- ② 副詞「もし」に呼応するように、「確保できるので」を別の表現に置き換えるとよい。
- ③ 「高くなる」という表現を、「可能性」に合わせて「大きくなる」に置き換えるとよい。
- ④ 「飛躍的に」は文意を強調しすぎているので、「とても」に置き換えるとよい。

【b】 友人と近場のカフェに行ったとき、私はサンドイッチを、友人はコーヒーを飲んだ。

- ① 「友人」の人数がわからないので、人数を明確にする表現を補うとよい。
- ② 「サンドイッチを」のあとに適切な動詞を補うとよい。
- ③ 副助詞の「は」が重複するので、1つ削除するとよい。
- ④ 「行ったとき」のあとに、時を表す格助詞を加えるとよい。

【c】 私は来客の応対で手が離せなかったので、系列店との打ち合わせには部下を行かさせることにした。

- ① 「行かさせる」に含まれる使役の助動詞を、「行く」という動詞の活用にあうような適切な形に修正するとよい。
- ② 「客」という語は失礼なので、敬意を表せるような適切な形に修正するとよい。
- ③ 文の前半部分と後半部分に対応するように、「ので」を適切な接続助詞に修正するとよい。
- ④ 「私は」「来客の」「応対で」「手が」のように助詞が連続しているので、助詞が連続しないように適切な表現に修正するとよい。

【d】 これまでの努力が実を結んで、昨日の試合では優勝できる。

- ① 「努力が」という主語に対して「実を結んで」「優勝できる」という2つの述語があるので、述語を1つにするとよい。
- ② 「これまでの」という表現では努力した期間が曖昧なので、具体的な期間を示す表現に修正するとよい。
- ③ 「昨日の」が「試合」の連体修飾部としてふさわしいものになるように、「の」を適切な助詞に修正するとよい。
- ④ 「優勝できる」の時制が「昨日の」に合わないので、適切な時制に修正するとよい。

E 次の空欄に入る適切な故事成語を、それぞれ①～⑧の中から1つずつ選べ。

解答欄は、【a】は 、【b】は

【a】 せっかくここまで頑張ってきたのに、今あきらめたら（ ）を欠くことになってしまうよ。

【b】 有能だからといって（ ）な行動が許されるはずはないだろう。

- |        |                                |      |                               |
|--------|--------------------------------|------|-------------------------------|
| ① 蛍雪の功 | ② 画竜点睛 <small>がりょうてんせい</small> | ③ 圧巻 | ④ 蟪蛄の斧 <small>とうろう おの</small> |
| ⑤ 自暴自棄 | ⑥ 温故知新                         | ⑦ 完璧 | ⑧ 傍若無人                        |

F 次の意味を表す言葉として最も適切なものを、それぞれ①～⑥の中から1つずつ選べ。解答欄は、【a】は 、【b】は

【a】 開拓者。その分野における先駆者。

【b】 逆説。表面上は矛盾しているようで、実は真理を含んでいるような表現。

- |         |          |          |
|---------|----------|----------|
| ① モラリスト | ② パイオニア  | ③ シンクタンク |
| ④ カテゴリー | ⑤ パラドックス | ⑥ ウィット   |

G 次の①～⑧の中で、誤字や誤用、表記等の誤りを含むものを3つ選べ。ただし、解答の順序は問わない。解答欄は、

テ	～	ナ
---	---	---

- ① 締め切り間近となって、今、私は印刷原稿の校正に追われている。
- ② もうすぐ来客があるよ、早く部屋をかたづけなさい。
- ③ 彼女の的を得た指摘のおかげで、問題の核心が明らかになった。
- ④ 具体と抽象の絶妙なバランスが彼の作品の抜きん出たところだ。
- ⑤ あの人は、潔く責任を認めたくて方向転換を指示した。
- ⑥ 夜空を彩る美しい花火を来年こそは見たいものだ。
- ⑦ 芋づる式に犯人を捕まえることができたのは、あの名刑事のおかげだ。
- ⑧ 君は驚いているようだが、それはもう衆知の事実だよ。

## 第2問

A 次の各単語の最も強く発音する箇所はどの部分か、その番号をそれぞれ1つずつ選べ。解答欄は、問1は 、問2は

問1 neu-tral

① ②

問2 del-i-cate

① ② ③

B 次の①～④の単語の中で、下線部の発音が他と異なるものを1つ選べ。解答欄は、

① doubt

② debt

③ thumbb

④ obvious

C 次の会話文を完成させるために、空欄  ～  に入れる最も適切なものを、それぞれ①～④の中から1つずつ選べ。解答欄は、問1は 、問2は 、問3は 、問4は 、問5は

問1 A: Where's my baseball glove, Dad?

B:  Isn't it still there?

- ① You don't need gloves. It's not cold.
- ② Let's go and buy one.
- ③ I saw it on your bed.
- ④ I think there is a ball in the car.



問2 A:

B: I'm afraid we're fully booked.

- ① I'd like to make a reservation for tonight, please.
- ② What are you afraid of?
- ③ Are there any books you can recommend?
- ④ Why is your bag so full?

問3 A: I can lend you my car, if you like.

B:

A: I said *lend*, not *rent*.

- ① Yes, I do like your car.
- ② I don't think it will be big enough.
- ③ But I can't drive.
- ④ Oh really? How much would it cost?

問4 A: This is my first time eating okonomiyaki.

B:

A: It's delicious.

- ① Is it better than before?
- ② How do you think?
- ③ Shall we eat it for dinner?
- ④ What do you think of it?

問5 A: Hello, John. How can I help you?

B: Do you think we could move tomorrow's meeting to an earlier time? For example, 2:30.

A:

B: But I think we need to meet before that.

- ① What day were you thinking of?
- ② Unfortunately, I can't make it before 4 o'clock.
- ③ Sure, we can meet now, if that is better.
- ④ How long will it take until the meeting?

D 次の問いにおいて、それぞれ下の①～⑤の語を並べかえて空所を補い、最も適当な文を完成させよ。解答は～に入れるものの番号のみ選べ。ただし、選択肢はすべて小文字にしてある。

解答欄は、問1は、問2は、問3は

問1 バッグをどこかに置き忘れたことに気がついた。

I \_\_\_\_\_ I \_\_\_\_\_  my \_\_\_\_\_ somewhere.

- ① bag
- ② left
- ③ that
- ④ realized
- ⑤ had

問2 私たちが駐車場を見つけるのには30分かかった。

It \_\_\_\_\_  half \_\_\_\_\_ hour \_\_\_\_\_ find \_\_\_\_\_ parking spot.

- ① an
- ② to
- ③ us
- ④ took
- ⑤ a

問3 彼女が非常に有能であることは否定できない。

\_\_\_\_\_ is \_\_\_\_\_  that \_\_\_\_\_ is very \_\_\_\_\_.

- ① no
- ② efficient
- ③ she
- ④ there
- ⑤ denying

E 次の英文を読んで、後の問いに答えよ。

Tired of life in the city, Tran Minh Tien, a technology teacher in Vietnam, left his job to return to his hometown in the countryside of the \*Mekong River delta.

He was much happier living close to nature, surrounded by the plants and animals that he was  with from his childhood. However, although he was happy to be home, he was now unemployed and knew that he had to find a new job.

Tien then had a good idea: somewhere he had read that plastic drinking straws were one of the most common types of plastic waste, and he realized that he could make natural drinking straws from the \*hollow grass which grew in the \*wetlands near his hometown.

Gradually, he gained support from his neighbors, and so (x)he set up a company to transform the wild grass into a finished product fit to drink from.

It is a very \*labor-intensive process.

After being harvested, the fresh grass straws are washed, and then thin metal \*rods are used to clean the inner part before they are cut into lengths of 18cm, the same size as a regular drinking straw. They are then dried under the sun for two or three days or, if the weather is bad, they are baked in an oven. Once completely dry, the straws are ready to be used.

Demand for these wild grass straws is growing in Vietnam. Tien's company sells them to restaurants, coffee shops, hotels and individuals all over the country.

But Tien doesn't want his company to grow too big. , he wants other people to start similar businesses in their local areas. To support this, he has posted a video on YouTube explaining his company's entire production process. The video has been watched more than two million (y)times.

(注) \* Mekong River delta – メコン川のデルタ (河口の三角州)

\* hollow – (中が) 空の、空洞の

\* wetland(s) – 湿地

\* labor-intensive – 手間のかかる

\* rod(s) – 棒

問1 空欄  ・  に入る最も適切な語を、それぞれ ① ~ ④ の中から  
1つずつ選べ。解答欄は、  ・

① careful ② popular ③ short ④ familiar

① Instead ② Moreover ③ Overall ④ Apparently

問2 下線部(X)に最も意味が近いものはどれか、次の ① ~ ④ の中から1つ選べ。  
解答欄は、

- ① 彼が資金調達した会社は、野草健康ドリンクの製造を終えた。
- ② 彼は、飲み物を吸いやすい製品を野草から作る会社を設立した。
- ③ 野草ドリンクに合う製品を供給する彼の会社は、大きな変化を遂げた。
- ④ 彼は、野草から健康飲料を製造する会社の設立を済ませた。

問3 time について、下線部(Y)の time と同じ意味で使われているものを、次の  
① ~ ④ の中から1つ選べ。解答欄は、

- ① Two times six equals twelve.
- ② We had timed our visit for August 24.
- ③ I brush my teeth three times a day.
- ④ We don't know what time she will come.

問4 英文の内容と一致しているものはどれか、次の①～⑥の中から2つ選べ。

ただし、解答の順序は問わない。解答欄は、・

- ① ティエンは新規事業を思いついたため、原材料の豊富な故郷に戻った。
- ② プラスチックごみに関する記事をティエンは書いたことがある。
- ③ ティエンの事業は、起業当初から地域住民に受け入れられた。
- ④ 野草の乾燥方法は天候に応じて変えている。
- ⑤ ティエンの会社は法人向け取引のみおこなっている。
- ⑥ 商品の製作方法を紹介する動画は、ティエン公認のものである。

### 第3問 次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

二〇一二年二月一五日のWIRE誌(オンライン版)に、「脳なしチキン」プロジェクトという記事が掲載された。英国で建築を勉強している学生が提案したものだ。

「英国の養鶏場では、狭い場所にたくさんの鶏たちが押し込められている。この状況は鶏たちにとって苦痛なものだ。だったら、鶏の脳皮質を取ってしまえばどうだろうか。鶏はもはや感情を感じない。鶏工場の中で、映画『マトリックス』(注1)の主人公たちさながらチューブでつながれて育てられる鶏たちは、ストレスを感じることなく成長する。これは、食料問題と動物福祉の問題の両方を解決する方法ではないだろうか」

この提案は、私たちのニーズと科学技術と倫理との間に生じている問題を私たちに突きつける。成長が速く、大量生産に適した食用鶏のブロイラーのように、人間は品種改良を重ねて家畜を現在の形に進化させてきた。家畜とはそもそも、人間のために改良された動物なのだ。

人間の食肉需要を満たすために、私たちは命のある家畜をどのように扱うべきなのか。現在、日本では人口減少が問題となっているが、世界的には途上国を中心に人口は増加し続けている。また、人々の生活が豊かになるにつれ、ますます食用肉の需要が高まっている。こうした中で、技術によって食料需要増を満たそうという研究が盛んに進められている。その典型例がクローン技術である。

一九九六年にスコットランドのロスリン研究所でクローン羊ドリー(注2)が誕生して以来、クローン技術を用いての家畜の研究が進められる一方で、安全性と倫理の問題から議論が続いている。

米国では、米食品医薬品局(FDA)が五年間にわたり、クローン技術でつくり出された動物の安全性について調査を行った。その結果、問題がないとして、〇八年にクローン技術でつくり出された動物とその子孫を消費することを承認している。米国、韓国、オーストラリアの企業などは実際にクローン家畜を生産している(ただし市場に出回っているかどうかについては信頼

性の高いデータはない)。

一方、クローン家畜に懐疑的なのがEUだ。欧州でも米国同様、EUの専門機関である欧州食品安全機関(EFSA)が発表した報告書で、クローン家畜の安全性を確認している。しかしクローン技術は動物の X に関わる問題であることから、EUでは二〇一三年に家畜のクローンの禁止と、クローン家畜とクローン家畜からつくり出された食肉やミルクの販売を禁止する法案が提出されている。

日本では、内閣総理大臣の諮問機関である科学技術会議が、「ライフサイエンスに関する研究開発基本計画について」の審議でクローン技術の問題を取り上げ、一九九七年に検討結果を答申としてまとめている。答申では「動物のクローン個体の作製は、畜産、科学研究、希少種の保護等において、大きな意義を有する一方で人間の倫理の問題等に直接触れるものではないことから、情報公開を進めつつ適宜推進する」という基本方針が出されている。現在、クローン家畜は、農業・食品産業技術総合研究機構などで、二〇〇頭以上飼育されているが、研究機関内で適切に処分を行うよう通知されており、一般には流通していない。

現在のところ、クローン家畜は市場で流通するには採算性が悪い。また、死産率が高いことなども問題になっている。将来、こうした問題が解決されたとき、私たちは「安全なら食べてもよいのか」といった問題に直面することになるだろう。「脳なしチキン」のように、動物の感覚自体をなくしてしまえば、動物の福祉を損なわずに食料生産ができるという議論も出てくるかもしれない。

そのとき、あなたはどのように考えるだろうか。

日本人が食事の前に言う「いただきます」とは、「あなたの命をいただきます」の意味だという。だから、手を合わせて頭を垂れて、その命に感謝していただくのだ。動物はすべて、他の生物の命をいただいてこそ、命をつなぐことができる。

生きるとはどういうことなのか。命とは何なのか。私たちはこうしたもつとも根源的な問いに、哲学書の前ではなく、スーパーの陳列棚の前で直面す

るようになるのだ。

(枝廣 淳子『<sup>なほひろしんこ</sup>『アニマルウエルフェアとは何か 倫理的消費と食の安全』による)

注1 『マトリックス』：一九九九年公開のアメリカ映画。主人公をはじめとする多くの人間は、コンピューターの動力源として液体の満たされたカプセルの中で培養され、仮想現実を生きていた。

注2 ドリー：体細胞クローンによって誕生した世界初の哺乳類。その誕生をきっかけとして、人間を含めた各種動物へのクローン技術応用に関する議論が活発化した。

問1 空欄  に当てはまる語句として最も適切なものを、次の①～

⑤の中から一つ選べ。解答欄は、

- ① 流通    ② 技術    ③ 命    ④ 安全    ⑤ 数

問2 文章の内容と合致するものはどれか、次の①～⑤の中から一つ選べ。

解答欄は、

① 英国で「脳なしチキン」プロジェクトが提案された。食料需要を満たすための科学技術の典型例としてクローン技術が挙げられるが、例えばクローン家畜には「安全なら食べてもよいのか」という問題がある。「脳なしチキン」プロジェクトは、私たちのニーズと科学技術と倫理との間に生じている問題を解決できる画期的な計画である。

② 食肉需要を満たすため、様々な科学技術が開発されてきている。しかしその一つであるクローン家畜については動物福祉上の問題点が明らかになってきた。「いただきます」という言葉の意味を真に理解できるように、科学技術による家畜のコントロールはせず、自然に近い育て方で飼育すべきである。



- ③ 「脳なしチキン」やクローン家畜のように、食肉需要を満たすための技術開発が進められている。しかし、新たな技術で食肉需要を満たすには、安全性の面での問題がつきまとう。私たちは、安全性という倫理的問題の議論を重ねながら、よりよい技術を生活に導入できるように研究を進めていく必要があるだろう。
- ④ 食肉需要が高まる中、科学技術によって需要を満たそうとする取り組みが行われている。その典型例であるクローン技術をめぐって、各国で議論が続いているが、クローン家畜がもつ採算性や死産率の問題が解決されたとき、私たちは「安全なら食べてもよいのか」という倫理的な問題に、日常の中で直面することになるだろう。
- ⑤ 食肉需要の高まりを満たすために、新技術の導入が行われている。その導入の方法は、米国、EU、日本のそれぞれで異なっている。日本では現在科学技術会議がクローン技術の導入に関する検討結果をまとめているが、将来的にはEU型の姿勢を推奨し、クローン技術に関する倫理的知見を豊かにしていくべきである。

## 第4問 次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

「鯨は魚であつて、且つ魚ではないとも言える」という、論理的には矛盾した命題が、日常の自然言語の枠組みの中では全く矛盾せず、両立するということを考えてみたい。

昔の人が、二つ以上の事物や対象を、同一の範疇<sup>はんちゆう</sup>に属するものと考え、そのことを表すのに、それらを同一の名称で呼ぶときの基本的な態度は、これらの事物に対して、彼らが同一の取り扱い、接し方をすることが、何らかの意味で、自分たちに利益をもたらすと判断することと言える。具体的に言うならば鯨を魚であると認めるということは、他の色々な魚に対するのと全く同じ方式で、鯨に対処することが出来ることを意味し、それがまた彼らにとって、最も有効性が高かったからに他ならない。鯨は水に住み、魚と同じ形をしており、捕らえる場合には、大型の魚をとる時の仕方と全く同じ手段でよいからだ。新鮮な鯨の肉は、昔から刺身にして食べる点も魚と同じである。

**A**、魚という言葉範疇がはじめて出現した時には、鯨が含まれておらず、次の段階において、鯨が一般の魚に似ているが故に、既存の魚のクラスに加えられたと考えることは出来ない。**B**、鯖<sup>さば</sup>、鮭<sup>さけ</sup>、鮪<sup>まぐろ</sup>などなどよりなる、形態的生態的に類似し、人々が同様の方式で取り扱いことが出来る一群の動物の一員として、はじめから鯨が含まれた状態で、人々の頭の中に魚という、まとまった一般的なクラスが生じたと考えるべきなのである。おそらく昔の人々の多くは、鯨が胎生であり、子供に乳を飲ませて育てること、また鰓<sup>えら</sup>でなく肺で呼吸することなどは知らなかつたと思われる。**C**、もしこのような事実を知っていたとしても、その故に鯨を一般の魚類から区別して別扱いにする必要も、意味も認めなかつたに違いない。**D**、ある動物が魚であるか、魚でないかについて、彼らの持っていた規準は、こんな事実とは無関係たつたからである。

一方ダーウイン(注1)の進化論に基づく近代の自然科学的動物分類学では、動物を祖先の近いもの同士をグループにして次々とまとめていく方式をとっている。この場合でも、先に述べたように、ごく最近までは、主として

外形、骨格などが、手がかりの大部分を占めていたため、従来の常識的で直観的な動物区分と一致することが少なくなかった。しかし、コウモリは翼があっても、ねずみの仲間に近いとか、鯨は魚に似た外見こそ持っているが、実は哺乳類だといった具合に、各所で素朴な前科学的動物観を修正していくのである。現在ではこの自然科学的知識が広く普及したために、ほとんどの人にとって鯨は魚でないことが常識のようにになっている。しかし大切なことは、だからといって昔の人が鯨を魚であると考えたことを間違いだと言うことは出来ないという点である。進化論的世界観を背景として「鯨は魚でない」と言う時の魚は、いつの間にか、昔から使われているその言葉を、全然違った見地から、定義しなおしてしまつて使つているからなのだ。だから強いて言うならば非は自然科学者の側にある。昔の人が、魚とはこれだと考えた規準は、自然科学の規準とは元来が無関係なものであつて、どちらがより真実に近いとか、正しい対象世界の把握かとかいう問題とは無縁なのである。

「Xは3であつて、しかも3でない」とか、「XはAであつて、同時にAでない」ということが論理的にあり得ないことは誰でも知つている。しかし、数学や論理学とちがひ、具体的な人間の、生活の必要、欲求などに、裏うちされ、ある特定の世界観の枠組みの中でしか用いられることの無い、自然言語の記号（ことば）では、「<sup>Z</sup>XがAであつて、しかもAでない」ことは、むしろ普通のことなのである。この性質があればこそ、言語というものは、次々と変化するわれわれの現実認識や、異なつた規準や、新しい文脈について行ける無限の包容力を發揮出来るのである。

もう一つだけ例をあげよう。理科の時間に「水は電気の不良導体（注2）である」と教えられる。ところが、現実の生活の場では、濡れた電気器具はしばしば感電事故の原因となつている。「水は電気をよく通す」のである。私達が普通に水と言う時は、水道の水、池の水などを考える。水とは飲むもので、冷たく、低い所に流れる。このような具体的な生活の中で、私たちが接する水には、無数の微生物が住んでいるし、色々な無機物質も溶けて入つている。この混入物の故に、普通の水は電気をよく通すのである。ところが実験室内で蒸留法によつて作られた純粹の「水」は、たしかに電気を通さな

い。水という言葉、どちらの文脈で使うのかを明示しない限り、水は電気を通すとも、通さないとも言える。強いて正誤を問題にするならば、むしろ「水は電気を通す」と言う方が正しいとすべきである。元来日常言語で用いられる「水」という言葉は、自然の状態で私達に身近に存在するものにつけられた名称だからである。もちろん水をH<sub>2</sub>Oと言いかえれば、もはや「H<sub>2</sub>Oは電気を通さない」としか言えない。しかし大切なことは、自然言語の「水」は、決してH<sub>2</sub>Oと等しくないということである。

このように、私たちが言葉を使うときには、全く同一の形をした記号（ことは）が、使う人の立場により、違った意味で用いられることが多い。いやそれどころか、一人の人が、自分ではそれと気付かないで、同一の言葉を、いくつもの異なった見地、違った視点から使っているものなのである。日常言語の持つこの性質は、しばしば曖昧性として非難され、攻撃的の的となってきた。今世紀（注3）初頭の主として英国における日常言語批判も、言語の不完全性を各方面から槍玉<sup>てびなま</sup>にあげてきた。しかし、前にも述べたように、目的とか効用を離れた、純粹に一般的な見地からの、絶対的な真の対象などというものは、有限の身である人間にはもともととらえることが出来ない。認識の手段が厳密かどうかということは、何を目的とするかによつて相対的に決まってくるものであつて、その意味では、日常言語は、不確実で曖昧どころか、この上もない精緻を極めたしくみと効率を持つているのだ。自然科学的発想や論理的思考に不向きだからとつて、自然言語を非難するのは、見当違いも甚だしいことであつて、第一、自然科学や論理構造といったものですら、人間が持ち得る数多くの視点、世界観のごく一部にしかすぎないことを忘れているからである。日常的な言語的思考というものは、同時に多元的な要求を満たす必要のある生活の場に、実によく適合した構造を持つていると言える。

（鈴木孝夫『ことばと社会』による。本文中の傍点は原文のまま）

注1 ダーウィン…イギリスの医師、博物学者。一八〇九—一八八二年。著書『種の起源』

（一八五九年）。

注2 不良導体…熱や電気を伝えにくい物体。

注3 今世紀…ここでは二〇世紀を指す。

問1 空欄 **A** 〱 **D** に入る語句の組み合わせとして最も適切なものを、次の①〱⑤の中から一つ選べ。解答欄は、 **ア**

- |   |         |        |        |        |
|---|---------|--------|--------|--------|
| ① | A ところで  | B そして  | C だが   | D 要するに |
| ② | A それゆえ  | B なお   | C あるいは | D すなわち |
| ③ | A つまり   | B かえって | C そのため | D ところで |
| ④ | A ところが  | B ただし  | C その一方 | D もとより |
| ⑤ | A したがって | B むしろ  | C しかし  | D そもそも |

問2 傍線部X「こんな事実」に当てはまるものをa〱hの中から選び、その組み合わせとして最も適切なものを、次の①〱⑥の中から一つ選べ。解答欄は、 **イ**

- |                |                  |
|----------------|------------------|
| a 鰓で呼吸する       | b 肺で呼吸する         |
| c 胎生である        | d 形が一般の魚に似ている    |
| e 刺身にして食べる     | f 水に住む           |
| g 子供に乳を飲ませて育てる | h 大型魚と同じ手段で捕獲できる |

- |         |         |         |
|---------|---------|---------|
| ① a・c・e | ② e・f・h | ③ b・c・g |
| ④ c・d・h | ⑤ b・c・h | ⑥ a・d・e |

問3 傍線部 Y「全然違った見地」の説明として最も適切なものを、次の

①～⑤の中から一つ選べ。解答欄は、

- ① 論理的規準とは異なった、直観的で素朴な認識の仕方。
- ② 直観的な動物区分とは異なった、自然科学的な分類の観点。
- ③ 広く普及した自然科学的知識とは異なった、前科学的動物観。
- ④ 自然言語的な把握の仕方とは異なった、正しい対象世界の把握。
- ⑤ 常識的な分類規準とは異なった、外形や骨格による分類規準。

問4 傍線部 Z「XがAであって、しかもAでない」と同じ論理で例文を作成した。その説明として最も適切なものを、次の①～④の中から一つ選べ。解答欄は、

例文：タラバガニはカニであって、カニでない。

注 タラバガニは生物分類学上、エビ目ヤドカリ下目に属するものとし、一般のカニはエビ目カニ下目に属するものとする。

- ① タラバガニはエビ目に属する点で一般のカニと同じだが、一般のカニと異なりヤドカリ下目に属するため、カニであってカニでない。
- ② タラバガニは形態も取り扱いも一般のカニと同様だが、スーパーマーケットでも売られるため、カニであってカニでない。
- ③ タラバガニは形も食品としての扱いも一般のカニと同じだが、和名に「タラバ」とついているので、カニであってカニでない。
- ④ タラバガニは形も取り扱いも一般のカニと同様だが、一般のカニと違ってヤドカリ下目に分類されるので、カニであってカニでない。

問5 文章の内容と合致するものはどれか、次の①～⑥の中から二つ選べ。

ただし、解答の順序は問わない。解答欄は、

オ	カ
---	---

- ① 二つ以上の事物や対象を同一の名称で呼ぶことは、あらゆる文脈において利益をもたらすことである。
- ② 昔の人の動物区分と自然科学的な動物区分とでは、昔の人の動物区分の方がより正確に対象世界を把握していると言える。
- ③ 数学や論理学の立場ではあり得ないことだが、自然言語の記号（ことば）の場合には形そのものが次々に変化することがある。
- ④ 「 $H_2O$ は電気を通さない」と言えるのは、 $H_2O$ が純粹の「水」以外を表さないためである。
- ⑤ 自然言語は、曖昧性を自然科学的発想や論理的思考によつて補うことで、精緻を極めたしくみと効率を持つことができる。
- ⑥ 日常的な言語的思考は、同じ言葉が違った意味でも用いられるという性質ゆえに、生活の場に適合した構造を持っていると言える。

第5問 次は、明治の文豪森鷗外<sup>もりおうがい</sup>の三男である森類<sup>もりりゆう</sup>を主人公にした小説である。これを読み、後の問いに答えよ。

門前から団子坂(注1)の上に向けてぐるぐると、銀色の三輪車を乗り回す。

何年か前のクリスマスプレゼントで、こうして高学年になっても充分乗れるほど頑丈なものだ。本当は大人が乗るような自転車<sup>じてんしゃ</sup>が欲しくて、先だつても父に掛け合ったばかりだ。

「パパ(注2)、ねえ、自転車。買ってよう、自転車を買って」

母もそばにいて値段を父に告げると、さすがに渋い顔をした。

「世間には、それだけの金子<sup>きんす</sup>(注3)で一家五人がひと月を暮らしている家がいくらもあるんだぞ」

それでも類は引かなかった。

「自転車が欲しい」

「三輪車がある。まだ乗れるだろう」

「二輪車がいい。どうしても乗りたい」

父は( X ) 面持ちで口許<sup>くちぐち</sup>を引き結んでいたが、「ええい、くそ。勝手にしろ」と、珍しく( Y ) 物言いをした。財布を取り出し、机の上に紙幣を並べていく。

そのさまを見るうち、恐ろしくなってきた。母が肩の上に手を置いた。

「類、やつぱり、そんな高価な物はよそう。このお金は買ったつもりで、お母ちゃんが預かっておいてあげます」

それで今も、この三輪車で遊んでいる。

「やあ、坊ちゃん。素晴らしい三輪車だね」

男が脚を広げて立っている。( Z ) 物言いだ。

「森先生はご在宅かな」

得意<sup>とりのみ</sup>の取次<sup>とりぎ</sup>が久しぶりにできる。類は三輪車のペダルから足を離し、藪<sup>くさ</sup>下の土の上に立った。

A 「お名刺」

手を差し出すと、「おっと、これは失礼」と言つて懐から紙片を差し出した。



それを手にして、門の中に入った。

「坊ちゃん。花畑を拝見したいと、お父上に伝えてくれたまえ」

「花畑を拝見」と口の中で鸚鵡返しにしながら、薄暗い玄関から式台へと上がった。左に折れて廊下を走り、書斎の戸を引く。

「バツパ、お客様。花畑を拝見だつて」

いつものように机に向かっている父が頭を動かさず、筆をかたわらに置いた。名刺を渡すと「雑誌の記者か」と眩<sup>くら</sup>き、類を見上げる。

「花畑を見たいと言ったのか」

首肯すると<sup>B</sup>しばし首を傾げるようにして考え、「わかった」と文机<sup>ぶんぎ</sup>に手を置いた。

近頃の父は、立ち上がる時に机に手をついたりする。以前には決してしなかった所作で、散歩の歩調も緩くなったような気がする。

「ボンチコ（注4）、お客を裏門から案内しろ。花畑で集合だ」

<sup>a</sup>久しぶりに勇壮な命を出された下士官のごとく、胸の鼓動が高くなる。そのまま門前まで取って返すと、その男が銀杏<sup>いちょう</sup>を外から見上げていた。

「僕が案内します」「そうですか。そいつあ有難い」

父は最近、親しい間柄の友人知人は別にして、約束のない訪問は受けつけなくなっている。断られるのも覚悟をしていたようで、男は門に向かって大きく足を踏み出した。

「こっち」

類が団子坂通りを指で示すと、ともかく後を従<sup>つ</sup>いてくる。歩きながら、男が訊<sup>き</sup>いてきた。

「何年生？ 六年生かな」

「五年生」

何とか、落第<sup>らくてい</sup>（注5）は免れている。

「そうか。背が高いな。本当は中学生かと思つたが、さすがに三輪車で遊ぶ中学生はいないからな。少し値引きをしたんだ」

屈託のない声で、カラカラと笑う。見た目よりも若い声だと思つた。歳<sup>とし</sup>の頃は、類には見当もつかない。

よく晴れた、春の空が頭上に広がっている。裏門から石畳の径を踏み、四ツ目垣の木戸から男を案内した。父はもう花畑の前に立っていて、懐手をしていた。少し背中が丸いが、客に向かって「やあ」とでも言うように目許をやわらげた。

「やはり、君か」

「閣下、ご無沙汰しております」

男は踵を音を立てて合わせ、父に敬礼をした。父は鷹揚になすいて返す。「人のやりとりからして、いつの時代かは知れないが、訪問者はかつての部下であるらしかった。

「佐野君、雑誌の記者になったとは驚かされるね」

「流転の人生です」

そう言いながら、男は朗らかに笑う。

「それにしても、噂に違わぬ、見事な庭です」

佐野という男は、一歩前に進んで花畑を見渡した。

「なあに、ほんの手遊びだ。誰かに見せるためのものじゃない」

四月の半ばを過ぎたこの北庭では塀沿いの植え込みの木々がさまざまな緑を芽吹かせ、白い石楠花と海棠の薄紅、山吹の花が盛りだ。花畑でもいろいろな草花が土を裂いて葉を出し、紫と白のヒユアシントはそろそろ見頃を終え、貝母百合が淡い黄緑色の花を見せている。菜花には紋黄蝶が訪れ、揚羽も高く低く花々を巡る。

類はこの春の匂いが好きだ。土が温もり、やわらかな匂いを吐く。

「それにしても、凄じ種類だ。何種類くらい植えておられるのです」

佐野が手庇(注6)をかざして感嘆している。

「どうだかな。数えたことはない。ただ、自然らしく造っているだけだ」

「自然らしく」

「ありのままの自然ではないということだ。草花の中にも熾烈な生存競争があつてな、ことに夏草などを放置すれば暴力的なまでの支配力を発揮する。その景色は優美ではない。ゆえにおれば、多種多様な花畑にしている。雑で強過ぎる草を抜き、野蛮なものの侵略を阻む、その手助けを少ししてやる」

「そういえば『田楽豆腐』にも、そのようなことを書いておられましたね。  
大正元年でしたか、あの作品は」

「君、小説を読むのか。あの頃は何も言わんかったじゃないか」

佐野は「は」と頭を下げ、「じつは」と言った。

「小説が好きで好きで、私自身、小説家を志したことがあるのです」

自嘲めいた声音だ。

「それで、雑誌の記者か。しかし名刺では、経済系の雑誌のような社名だったが」

「そこしか雇ってくれませんでした」

「今、書いているのか」

「書いては捨て、己の才のなさに絶望する毎日です」

類は話を聞くのに飽いて、中央に通っている小径に足を踏み出した。

D  
「ほら、ここ、はないんげん花隠元」

佐野は目を丸くして、父と顔を見合わせた。父は笑いながら小径をてのひら掌で示す。佐野が小径に入ってきた。

「葉っぱが出てるだけじゃないか。坊ちゃん、よくわかるなあ。そうか、君が父上と一緒に手入れをしているのか」

「そうじゃないけど」

庭仕事をしているのは父だけだ。勤めと執筆の合間を縫い、種を蒔まいている。苗を植え替え、こぼれ種を拾い、花殻を摘む。

「本当は花隠元ではなく、スイートピーだがね」

「洋花ですか」

「種しゅ苗屋びょうやに花隠元を注文したら、スイートピーをよこしやがった。毎年、西洋花が増えるばかりだ。石竹を植えたいと思えど、種苗屋の親爺おやじは今はカーネーションしかないと言う」

父は散歩に出た道すがら、種苗屋の店先で必ず足を止める。そして種袋の裏を読み流して、残念そうな表情になる。何か、失せ物ものをしたような顔つきだ。

「種苗屋が間違えているわけではないんですか」と、佐野が真面目な声で訊いた。

「玄人は間違えんよ。西洋化が進み過ぎて、日本の草花の種苗が商いの市場に出回らんようになっておるのだ。このまま進めば、日本の風景はまるで変わってしまうことだろう。自然だけは、おいそれと取り返しがつくものではないというに」

類はそれをまた、じいと聞いていた。言っていることの半分もわからないけれど、父が何かを案じている気配は察せられる。

「バツパは、外国が嫌いになったの」

気がつけば、そう投げかけていた。

「嫌いじゃない。もう一度、欧羅巴を訪ねてみたいほどだ」

「バツパは独逸に留学して、翻訳もたくさんしているでしょう。なのに、西洋花はなぜ嫌いな」

留学や翻訳だけでなく、類の身の回りには西洋の物がたくさんある。菓子に飲物、玩具、絵本、そしてあの三輪車もだ。洋服も特別な物は仏蘭西や独逸から雛形帳を取り寄せ、父と母が吟味して注文する。

「西洋花を嫌っているわけでもない。サフランやヒユアシントには風情を感じるし、書齋にも鉢を置いているだろう。そうではなくて、物事が一辺倒であるのが良くないとおれは言っているのだ。毬のような花をつける天然牡丹を買おうと思っても、草花市では平たい花のダアリアしか扱っていない。日本人の、そういう流行ばかりを追う性質を案じている」

「そういえば、『サフラン』という作品も書いておられますね」と、佐野が手帳を取り出した。

「あれは花期が短い。ほんの一、二週間だ。しかも夜明けに咲いて、たちまち枯れ始める。手入れもなかなか難しいが、しかし土の間から鮮やかな花を覗かせている姿を見つけると、何やら神妙な心持ちになる。けなげで、懸命だ」

佐野は鉛筆を走らせている。その横顔を父は黙って見つめている。

「書きたまえ」

佐野が手を止め、父を見返した。

「おれはとうとう、役人と文学、二つの道を歩き続けた」

そこで父は疲れたように息を吐き、懐から懐紙を取り出した。口許にあてて頬を動かしている。唾か何かを音もなくそこに吐いたようで、咳のような音が微かに聞こえた。しかし懐紙を綺麗に折り畳み、すばやく懐に仕舞う。

「君も往きたまえ。艱難の道を」

佐野は手帳と鉛筆を持ったまま、しばらく何も言わなかった。

山鳩が鳴いている。

佐野は父に向かって、深々と頭を下げた。

(朝井まかて『類』による)

注1 団子坂：東京都文京区千駄木にある坂。森鷗外の自宅「観潮楼」の門が面していた。

注2 パッパ：父である森鷗外を子供たちが呼ぶときの呼び方。

注3 金子：元は貨幣として使われた金のこと。ここでは、お金、金銭を言う。

注4 ボンチコ：頬を指す。人目が無いとき鷗外は我が子をこう呼ぶ。大阪で坊ちゃんを「ぼんち」と呼ぶのに「こ」を付けたもの。鷗外の愛情と冗談が入り混じった呼び方。

注5 落第：成績不振で進級できないこと。当時尋常小学校では進級試験の成績による原級留置（落第）があった。類は授業についていけず担任から落第を警告されていた。

注6 手庇：額の辺りに手を庇のようにかざして眺める仕草。

問1 文章中の波線部 a ～ c に用いられている表現法として正しいものを

① ～ ④ の中から一つ選べ。解答欄は、

- |   |   |     |   |     |   |     |
|---|---|-----|---|-----|---|-----|
| ① | a | 明喩法 | b | 擬人法 | c | 倒置法 |
| ② | a | 暗喩法 | b | 擬態法 | c | 省略法 |
| ③ | a | 直喩法 | b | 擬態法 | c | 倒置法 |
| ④ | a | 換喩法 | b | 暗喩法 | c | 反語法 |

問2 文章中の空欄 ( X ) ～ ( Z ) にそれぞれあてはまる最も適当な言葉はどれか。組み合わせとして最も適切なるものを、① ～ ⑥ の中から一つ選べ。解答欄は、

- |   |         |   |             |   |           |
|---|---------|---|-------------|---|-----------|
| a | きびきびとした | b | まんざらでもない    | c | 肝をつぶしたような |
| d | おっとりした  | e | 苦虫を嚙み潰したような | f | 捨て鉢な      |

- |   |       |       |       |   |       |       |       |
|---|-------|-------|-------|---|-------|-------|-------|
| ① | X . f | Y . b | Z . a | ② | X . c | Y . f | Z . d |
| ③ | X . b | Y . e | Z . f | ④ | X . e | Y . c | Z . b |
| ⑤ | X . e | Y . f | Z . a | ⑥ | X . f | Y . a | Z . c |

問3 傍線部 A 「お名刺」を音読する際、最も適切な読み方を、① ～ ④ の

中から一つ選べ。解答欄は、

- ① 緊張した様子の固い声で読む。
- ② 張り切った感じの元気な声で読む。
- ③ 見上げて甘えるように読む。
- ④ 細い声でどきまぎしたように読む。

問4 傍線部B「しばし首を傾げるようにして考え」とあるが、後の叙述をふまえたとき、何を考えていたといえるか。その内容として最も適切なものを、①～④の中から一つ選べ。解答欄は、

エ
---

- ① 名前に覚えがないが、この雑誌記者とした面会の約束を自分は忘れてしまっているのだろうか。
- ② 約束のない訪問は受けつけないと知っているはずなのに類は名刺を受け取ってしまって、今さら断りにくいがさてどうしたものか。
- ③ 名前に覚えはあるが、もしかしたらその人が雑誌記者になって訪ねてきたのだろうか、それとも別人だろうか。
- ④ ずいぶん昔に文学も役人も辞めてしまった自分のところへ、この雑誌記者はいまさら何の用があつて訪ねてきたのだろうか。

問5 傍線部C「尊に違わぬ、見事な庭」とあるが、この庭は主人のどのような意図で作られているか、説明として最も適切なものを、①～④の中から一つ選べ。解答欄は、

オ
---

- ① 約束のない訪問客を受けつけなくなった今でもこの花畑を見たいという客だけには会うように、日ごろから丹精込めて手入れをしている自慢の庭。
- ② 現役を退いた今でも世間から忘れ去られないために、人々の評判になるような花々を選んで数え切れないほど多く植えている美しい庭。
- ③ 多種多様な在来種をできるだけ多く植えてそれぞれの生命力のままに成長させ、西洋風の野蛮さを排して伝統的な日本の美の再現に努めた庭。
- ④ 仕事の合間を縫って一人で手入れをするだけで、格別の造作なく雑多ともいえる多種多様な花の自然な美しさが見られるようにした庭。

問 6 傍線部 D 「ほら、ここ、花隠元」は誰の言葉か。①～④の中から一つ選べ。解答欄は、

カ
---

- ① 父      ② 母      ③ 類      ④ 佐野

問 7 傍線部 E 「何かを案じている気配」とあるが、「父」が案じているのはどういうことか。その内容の説明として最も適切なものを、①～⑤の中から一つ選べ。解答欄は、

キ
---

- ① 高学年になっても三輪車で遊んだり父の言葉の半分もわからなかったりするように、いつまでも幼稚な類の将来。
- ② 自然だけはおいそれと取り戻せるものではないのに洋花ばかりが流通して、日本の風景がまるで変わってしまいそうなこと。
- ③ 小説家を志したことも隠して軍人や雑誌記者としてしか暮らせない、佐野の流転の人生。
- ④ 流行ばかり追いかけて大事なものを失うことにも気づかないような、日本人の物事に一辺倒な傾向。
- ⑤ 今なお多くのものを外国から取り寄せないといけないように、かつて独逸に留学した鷗外の日から見ると、技術も豊かさも西洋に劣る日本の状況。



問 8 傍線部 F 「山鳩が鳴いている」の効果についての説明として最も適切なものを、①～⑤の中から一つ選べ。解答欄は、

ク
---

- ① 変わりゆく自然を嘆く鷗外と言葉を失った佐野に、山鳩の鳴き声で変わらぬ自然の力強さを伝える効果。
- ② 自分と同じように苦しくても文学と仕事を両立させろという鷗外に対して、山鳩のような自由な生き方もあると示す効果。
- ③ 鷗外の言葉をかみしめたまま続いていた佐野の沈黙の時間に、山鳩の鳴き声で区切りをつける効果。
- ④ 老いた鷗外にしのがよる病魔に気づいて何も言えなくなった佐野の沈黙を、山鳩の声が破ることで緊張が解ける効果。
- ⑤ 鷗外と佐野の会話だけがクローズアップされて忘れられていた類が、山鳩の声で視点人物としての存在感を取り戻す効果。

## 写真・資料等について

### 【学校推薦型選抜（指定校・一般公募制）】

#### ○基礎学力テスト

- ・第3問 『アニマルウェルフェアとは何か ―倫理的消費と食の安全』 枝廣淳子著  
岩波書店刊
- ・第4問 『ことばと社会』 鈴木孝夫著 中央公論社刊
- ・第5問 『類』 朝井まかて著 集英社刊